

アカエゾマツを活用した 交通安全割符の開発と地域資源利用の実践

明治大学 月岡忠 別府豪 永瀬颯人 猪俣智哉 都留文科大学 本多真理

研究の背景・目的

北海道に広く自生するアカエゾマツは、アイヌ文化で「女神の木」として大切にされてきました。しかし、**細くて割れやすい性質**のため建築材としての利用が難しく、梱包材など限られた用途にとどまり、**価値が十分に生かされていません**。そこで本研究では、この「**割れやすさ**」に着目し、**欠点を価値に変える方法**を探りました。浦幌神社、土井木材株式会社、一般社団法人 Pine Graceと連携し、「割符」として活用することで、**地域資源としての新しい役割をつくること**を目的にしました。

割符（わりふ）とは、木の板を自分の手で二つに割り、片方に厄を書いて神社で納め、もう片方をお守りとして身につけることで「厄を断ち切る」意味を持たせる伝統的なお守りです。



写真1 交通安全割符
注： 試作を経た完成品です。

研究の内容・成果

2025年7月からアカエゾマツ原木の状態を調べ、専門家の知見を得ながら「**割符**」に適した**加工方法**を検討しました（写真2）。9月のアカエゾマツサミットでは**試作品の実演**や**意見収集**を行い、10月には浦幌神社で正式な「**魂入れ**」の神事を経て完成品として頒布できるようになりました（写真3、4）。木材加工・価格設定まで含め、**産学神が連携した具体的な地域資源活用モデル**として形になった点が大きな成果と考えています。



写真2 専門家との意見交換風景

注：2025年7月に土井木材、8月にPine Grace（横田博代表理事）、9月に浦幌神社（背古宗敬宮司）と打合せを実施しました。



写真3 割符の実演風景

注：2025年9月、第11回アカエゾマツサミット（北海道弟子屈町川湯温泉）にて報告を行いました。



写真4 完成品の頒布

注：浦幌神社にてアカエゾマツ交通安全割符が展示されています。

今後の展開

今後は、年始の頒布状況や各展示会（エコプロ2025など）への出展で寄せられた意見を踏まえ、**割符のデザイン等**を改善していきます。また、交通安全だけでなく、**防災祈願**や**学業成就**など、用途の拡大も視野に入れています。たとえば、アカエゾマツの香りによる**リラックス効果**や**虫よけ効果**などの特性を活かし、**木育教材**や**学習プログラム**として学校や地域イベントに広げることも可能と考えています。さらに、他の関係機関などとも連携し、地域資源を再評価しながら**地域資源活用モデル**を展開させていきたいです。



写真5 アカエゾマツの巨木注：第11回アカエゾマツサミットのイベントにて撮影しました。